

「慢性腎臓病患者における患者医療参加度、ヘルスリテラシー、QOL と予後との関連に関する前向き縦断研究」についてのご報告

この度、腎臓サポート協会会員の皆様には、「慢性腎臓病患者における患者医療参加度、ヘルスリテラシー、QOL と予後との関連に関する前向き縦断研究」にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

おかげ様で、2026年1月9日～2月13日の間、302名の方にご回答いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

ご協力いただきました結果は、慢性腎臓病の治療に貢献すべく、医学論文にて公表させていただきますが、まずは調査結果の一部を皆様にご報告いたします。

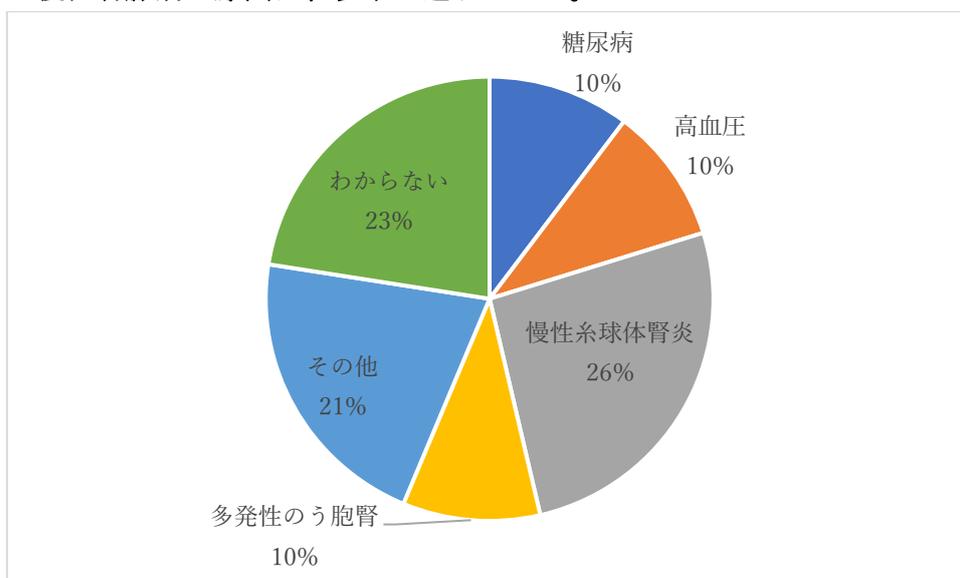
今後、2029年頃に追跡調査と致しまして、再度同様のアンケートにご協力をお願いさせていただく予定です。是非、ご参加いただきました皆様のその後の状態をお伺いできればと思います。ご協力の程をよろしくお願いいたします。

東京医科大学 茨城医療センター 総合診療科 小林大輝

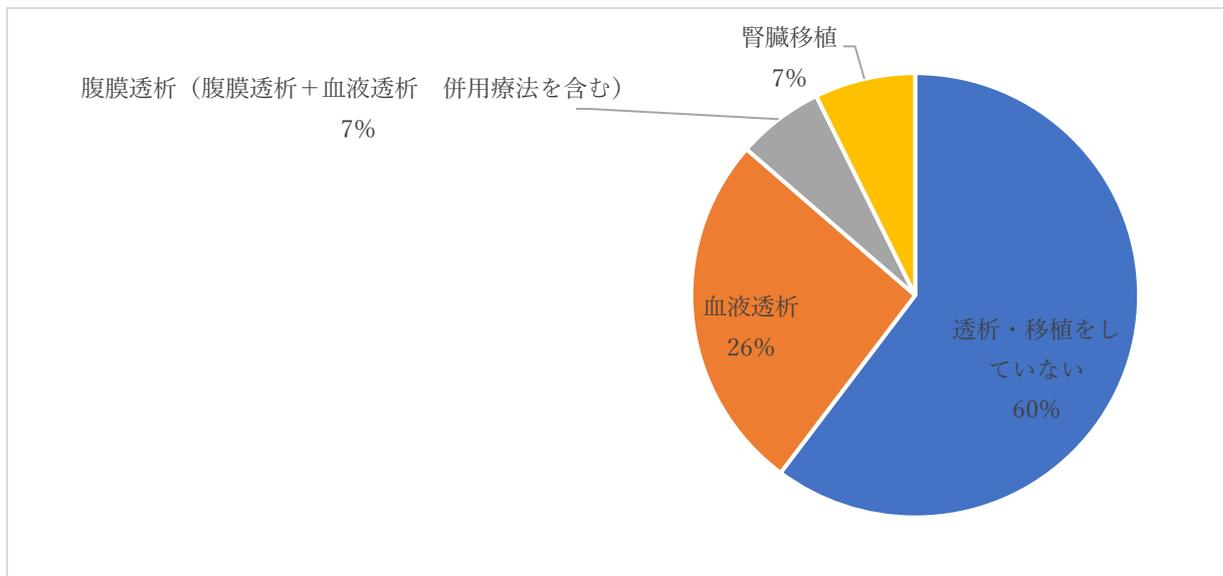
【アンケート調査結果】

- ・この研究では、**302名**の方にご参加いただきました。
- ・みなさまの平均年齢は **64.3歳**でした。
- ・男性が60%、女性が40%でした。

- ・慢性腎臓病の原因は、以下の通りでした。



・現在の慢性腎臓病の治療の割合は、以下の通りでした。

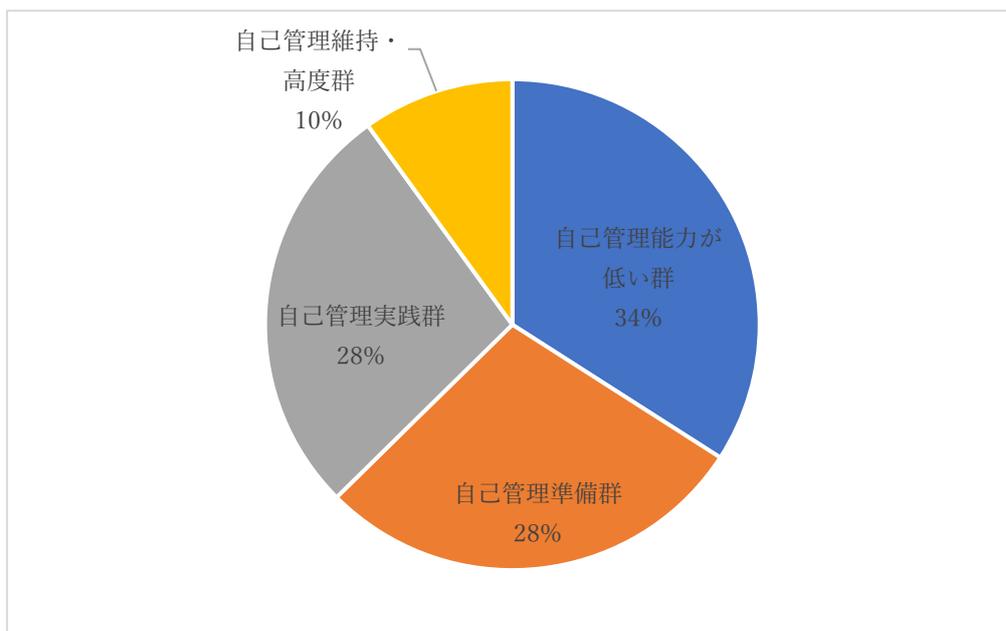


・今回の研究の主眼となります、患者医療参加度は以下の通りでした。

[患者医療参加度]とは、「ご自身の健康や治療に、どれくらい主体的に関わっているか」を表します。

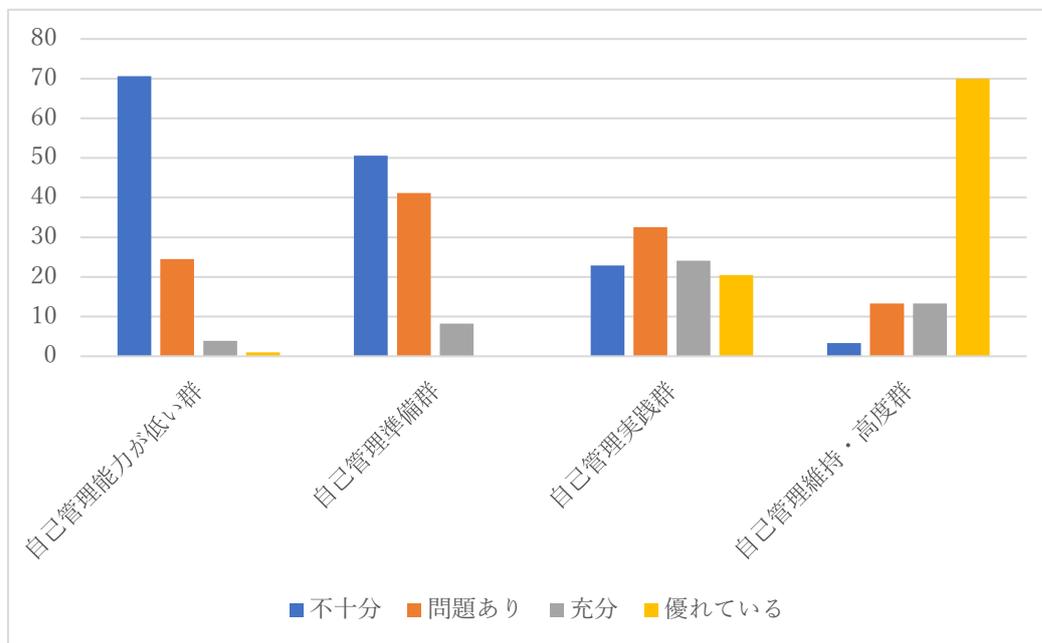
高い順に、自己管理維持・高度群、自己管理実践群、自己管理準備群、自己管理能力が低い群とされています。

主体性が高い、自己管理維持・高度群と、自己管理実践群の方は、全体の1/3程度でした。



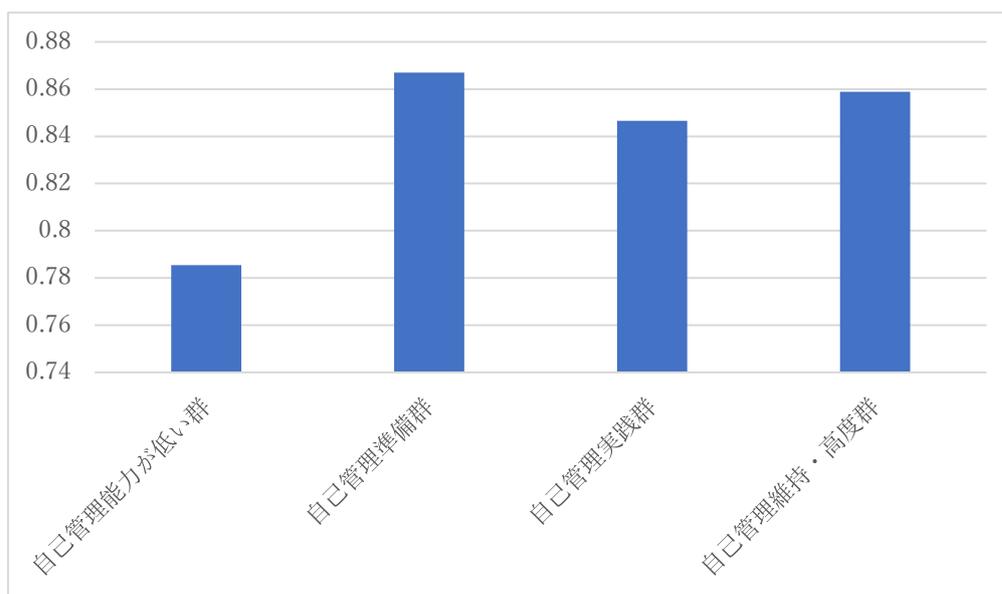
・患者医療参加度とヘルスリテラシーの関係は以下の通りでした。

[ヘルスリテラシー]とは、「健康についての情報を、正しく理解して、自分の生活に活かす力」です。



積極的に医療に参加される患者さんの方が、健康についての情報をより詳しく知っている傾向にありました。

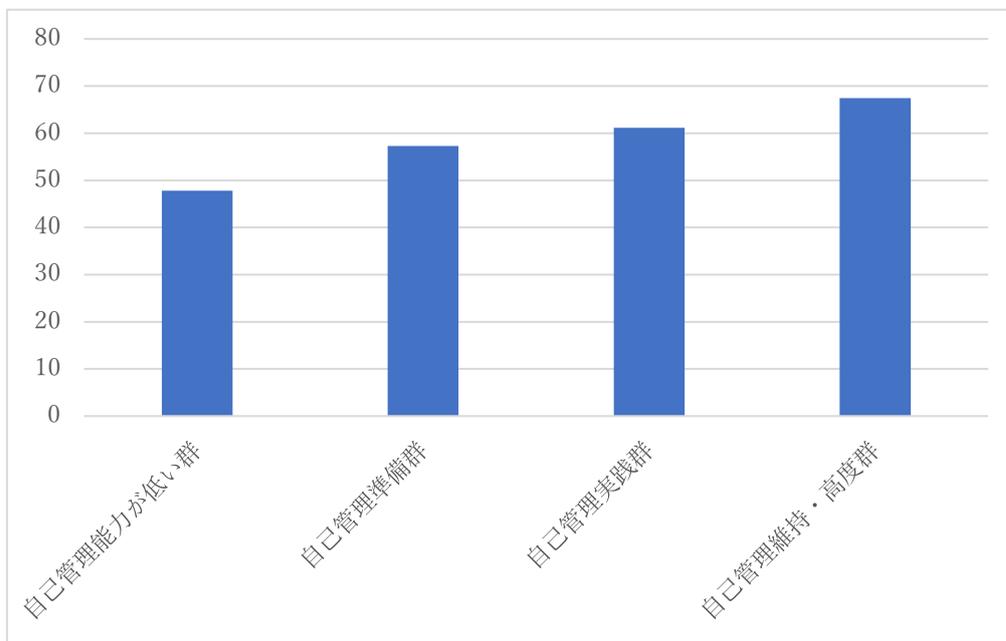
・患者医療参加度と生活の質の関係です。



積極的に医療に参加される患者さんの方が、生活の質も高い傾向にありました。

・患者医療参加度とウェルビーイングの関係です。

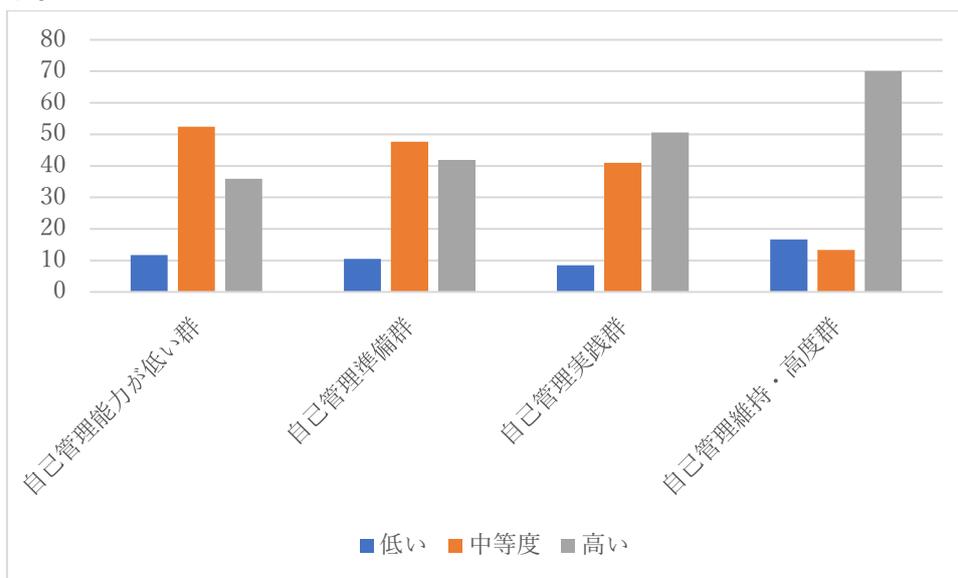
[ウェルビーイング]とは、「からだもこころも、そして生活も、全体として良い状態にあること」を指します。



他の項目と同様に、積極的に医療に参加される患者さんの方が、全体として良い状態にあることがわかりました。

・患者医療参加度とソーシャルサポートの関係性です。

[ソーシャルサポート]とは、「困ったときに、支えてくれる人がいること」と表されます。



積極的に医療に参加される患者さんの方が、支えてくれる人が多い傾向にありました。

以上のように、慢性腎臓病の患者では、患者医療参加度が様々な良い効果と関係があることが示されました。この状態が3年後には更にどう変化するのかを、是非調査させて頂きましたらと考えております。どうぞ次回の調査にもご協力、なにとぞよろしくお願い申し上げます。